

わらべうた (5) おてぶしてぶし

おてぶし てぶし てぶしの なかに へびの なまやけ かえるの さしみ

9
 いちよば こ やる から まるめて おくれ いーや おおはずれ
 おおあたり

小泉文夫著「日本傳統音楽の研究1」（昭和48年第8刷）での分類によれば、核音を1つしか持たない「エンゲ（狭いという意味）・メロディー型」（p.129）。その中で3音旋律の(1)長2度+長2度、終止音は真ん中の音、に分類される（p.109）。たったの3音からできているが、「へびのなまやけ」や「かえるのさしみ」と言うぎょつとつつも面白い言葉に、音の動きがよく合っていて、とても優れたわらべうただと思う。

〔遊び方〕

向かい合った2人の内1人が、両手を合わせた中に小さな物を入れ、歌に合わせて上下に振り、最後のいーや、で右手あるいは左手どちらかの手に移しつつ両手を離し、どちらの手に持っているか、相手に当てさせる。当たったら「おおあたり」、はずれたら「おおはずれ」と歌って終わる。役を交替して遊んだりする。親子で遊ぶと、子供はとても喜び、お友達と遊んでも楽しい。手の中に入れる小さなものは、消しゴム、磁石、石ころ、かなり小さなフィギュア等々、片手の中に入る大きさの物なら何でも良い。（中新井紀子）

水越 啓 モーツァルトを歌う、フォルテピアノ 小林道夫 と共に (2025年7月13日)

オールモーツァルトプログラム。モーツァルトの少年期から晩年に至るまでの計21曲の歌曲と2曲のピアノソロが、内容や調性に合わせて配置された聴き心地のよいプログラムでした。歌曲は愛の喜びや哀しみ、皮肉めいたユーモラスな詩から、モーツァルトが晩年に加入するフリーメイソンのために書いたという宇宙規模の内容まで様々。テノールの水越啓さんの歌声は語るように温かく柔らかで、時に熱を持って歌い上げる場面ではホールいっぱいその歌声が豊かに響き渡りました。また御年92歳というフォルテピアノの小林道夫さんは言わずと知れた古楽界の第一人者。様々な情景の歌曲を表現するように、多彩なワルターの音色を引き出します。水越さんの歌に寄り添い、かつ音楽の流れを作り、引き締める、魅力あふれる共演でした。またピアノソロとして、前半には変奏曲形式で書かれた『クラヴィアソナタ第11番K331』第1楽章よりテーマを、後半には『幻想曲 二短調 K397』を演奏。特に幻想曲は深い音色が響き渡り、そして休符や音楽が変化するときに生じる無音の“間（ま）”に引き込まれました。聴いている側も一体となるような、集中力の高い演奏に感服の一言でした。

シンプルで洗練されたモーツァルトの作品であるからこそ、お二人が持つ確固たる音楽性が引き立つように感じました。館長の中新井さんは長きにわたって西方音楽館で小林道夫さんに演奏していただけることを切望されていたそうで、終演の挨拶では今回その夢が叶ったことを嬉しそうに語られていました。

コンサート終演後は館長のおもてなしのもと、出演者を囲んでのお茶会が開かれました。参加者は10名、そのうち小林道夫さん、館長含め7名が東京藝大楽理科出身！楽理科3期生という小林道夫さんの学生当時の貴重なお話を伺いました。私も若輩者ながら楽理科卒業生として先輩方と交流させていただき、充実したひとときとなりました。

（加藤美季：鍵盤楽器奏者、西方音楽院ピアノ科（上級）&フォルテピアノ科講師）
 ※2026年6月13日（土）同じお2人で、今度はベートーヴェンです。



岡田龍之介と「ムジカ・レセルヴァータ」

西方音楽館「木洩れ陽ホール」2012年開館直後の春から、毎年のように演奏していただいている岡田龍之介氏。最初はヴァイオリンの迫間野百合さんと、次はメゾ・ソプラノのペトラ・ノスカイオヴァさんと、そして、その後ムジカ・レセルヴァータとして。チェンバロ奏者としては、テクニシャンではいらっしゃいませんが、音楽が深い、という印象を持っていました。ムジカ・レセルヴァータの演奏については、「心が安らくなる」と音響設計の故永田穂氏がよくおっしゃっていましたが、私も同感でした。

つい昨年、2025年12月13日（土）15:30 西方音楽館にて《遥かなるブリテンの調べ》イギリス音楽200年～エリザベス朝から産業革命へ～と題する古楽アンサンブル「ムジカ・レセルヴァータ」のコンサートが開催されました。エリザベス朝ルネサンスの音楽から200年後の産業革命期と重なる「多感様式」の音楽まで、さらに狭いイギリスの中でも、南のイングランド文化圏、北のアイリッシュ文化圏、ロンドンの音楽、スコットランド系の音楽との融合など、時代や文化圏により異なる特徴を持つ多彩な音楽を聴かせていただきました。

このコンサート終了後、足しげく聴きにいらしてくださっている方が「このアンサンブルのコンサートが、西方音楽館に一番合っている。」とおっしゃいました。知的に練られたプログラム等々一般受けしにくい内容で、集客には苦労するのですが、その温かみのある演奏は、人の手があまり入らない雑木の庭に建てられ、木のぬくもりが感じられる古楽に適した木造白壁の「木洩れ陽ホール」での、手作り感たっぷりのコンサートには、とても合っている、と確かに思えました。

メンバー4人のアンサンブルも、年々回数を重ねる度に、それぞれの個性を保ちながらもじっくりと且つ生き活きと融合し、そして何よりも、音楽的深さを伴った温かな演奏に、心が安らかくなります。

今年12月26日（土）にまた演奏していただきます。次回はどのような内容のコンサートになるのか、ぜひ、聴きにお出かけください。（中新井紀子：西方音楽館館長）

古楽アンサンブル「ムジカ・レセルヴァータ」メンバー

国枝俊太郎（フラウト・トラヴェルソ、リコーダー）
 小野萬里（バロック・ヴァイオリン）
 高橋弘治（チェロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ）
 岡田龍之介（チェンバロ）



西方音楽館友の会会費収入 2025年1月～12月合計

A 会員 4,000 円 20 名 B 会員 10,000 円 34 名 C 会員 15,000 円 1 名
 D 会員 20,000 円 9 名 合計 64 名 615,000 円

緊急募金を除く1月～12月までの友の会総収入 2,425,332 円
 友の会総支出 3,629,707 円

収入 2,425,322 円ー支出 3,629,707 円＝－1,204,375 円

緊急募金（2025年10月～12月まで、一般財団法人西方芸術振興財団預かり）は、お陰様で目標額の100万円を超え、1,052,936円集まりました。

ご協力くださいました皆様、ありがとうございました。上記友の会のマイナス分は、この緊急募金と（一財）西方芸術振興財団からの支援金で賄いました。

（一財）西方芸術振興財団では、スポンサーを募集しています。
 西方音楽館全般の活動を支援していただきたく、ご協力よろしくお願いたします。